

態で進むところにふと見えた光が、数個。一瞬の後  
にそれは、ゲンジボタルらしいとわかったのです  
が、この時ばかりは、どきっとしました。明るい玄  
関にたどり着いたときは、心底ほっとしたものでし  
た。

子どもたちは怖い話を喜ぶのも、暗がりのをのぞき  
込むのも、そばに大人の手や明るい安全な場所があ  
り、すぐに逃げこめるといふ確信があるからではな  
いでしょうか。「トイレの花子さん」は、あっとい  
う間に全国の学校に伝わりましたが、かつてお年寄  
りの話に息をつめて聞きいていた子どもたちのよ

うに、怖がりつつも明るく楽しんでいるように見受  
けられます。媒体はかわっていくものの、いつの時  
代も、子どもたちは、闇を創りだし感じ取る名手な  
のかも知れません。

子ども時代から遠く離れた今、思い返してみる  
と、いつの間にか、暗がりには何かいると想像するこ  
ともなくなり、怖がることもなくなってきました。  
成長することは、闇を切り捨てて行くことなので  
しょうか。そんな大人たちが、暗がりから妖怪たち  
をひっぱりだし、かわいらしく据えつけてしまった  
のかも知れません。

(小学校教諭)

## 暗さもつつみこむ園生活

藤野 敬子





暗い所で遊ぶ

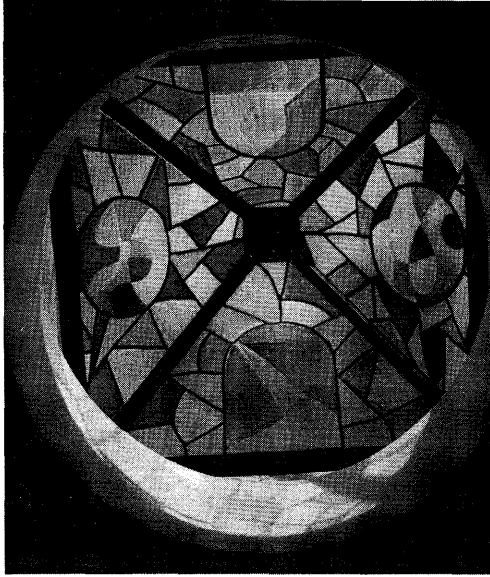
「もし、あなたが園を創るとしたら」というレポートの途中で、学生が予想外に、暗い所を作っている。例えば「裏に、樹の茂みで暗い所があり隠れ家になる」「ガラス張りの天井にして光が一杯射し込むようにしたいが、雨や曇の日には、照明は使わず、暗いままで暮らすのもいいのでは?」「厚いカーテンを閉めると暗幕のように暗くなり、お化けごっこもできる」「天井裏にロフトがあり、独りでゆっくりいられて、小窓を覗くと遠方まで見渡せる」等である。土管のトンネルや、押入れのようなコーナーに身をひそめるのが好きな子ども達に、光や影を自然のまま肌を感じさせたいという思いのようである。

暗幕といえは、誕生日のお祝いの後で、スライドを映す予定だったが、暗幕の調子がわるいので朝、試運転をしていたら、閉まったまま動かなくなったことがある。思案にくれていると子どもが、暗いのなら、本物のローソクをつけたいと言いつ出した。円

形の空き缶を探して裏にローソクが立つように工夫し、暗がりにゆらめく炎を、そっと吹き消すさまを見守る時の雰囲気がよくて、次回は小麦粉粘土の色どり美しいケーキにローソクが立てられた。暗さを即座に生かしたのは子どもの方だった。暗幕を子どもでも開閉できるようにからは、色んな遊びに頻繁に活用されるようになっていったのである。

暗い所と明るい所

静岡大学の附属幼稚園から六本木の東洋英和幼稚園へ移って驚いたのは、真昼でも暗く、照明をつけて保育していることだった。旧宮家の跡地で、ひときわ高い石塀がめぐらされ、生い茂った樹々に囲まれ、建物の庇も長い。屋内はすべて板張りで木の建具である。コンクリートの白壁やサッシュのように光る部分がないので暗く感じる。庭に面した廊下も、壁の所は暗い。車に友達を乗せてバスごっこをしていた子どもが廊下を往復しながら、陰に入ると



▲ 手作りのスタンドグラス

「夜ですよ」、ガラス戸の所へ出ると「朝ですよ」と連呼して遊ぶ姿もあった。

吹き抜けて高いホールの天井や保育室にも明かり採りの窓はあったのだが、いつしか光を通さなくなっていた。そこを新しいのに取り換えた時、子ども達とスタンドグラスを作ってみたことがある。透明の薄板に色を塗って厚紙の枠に張った物を持っ

て、先ず二階へ上がり、低い窓をまたいで一階の屋上へ出る。高い枝に実ったビワの実を取る時のコーズで、そこは陽光がさんと注いでいる。ここに人工の川を流し、水浴びができたらいつも夢の広がる場所である。その屋上に突き出ている窓へ紙枠を張りつけ、保育室に戻って仰ぐと、手作りとも思えぬ美しい光が射しこんでいる。夜のまに強風に吹きとばされ、消えたスタンドグラスを探して園庭を駆けめぐることもあった。

絵本棚がじゅうたんの周りにあるホールの一隅や、織物等をすする廊下の突き当たりには、ランプシェードの美しい大型のスタンドが置かれて一層の光と趣きをそえている。そんな様子を見て来園者が「暗いけど落ちつきますね」と言われる。どことなく暗い教会内部とスタンドグラスを連想させる。夜のクリスマス礼拝、追分キャンプで、ファイヤーの後、闇を通って戻った小部屋で子ども達と膝つき合わせて祈る時や早朝の林の中の礼拝等、今も深く心

に残っている時が暗さとながっているのも不思議である。

時間と場所の他に、表情の暗さもある。家庭の状況や塾通い等で緊張を強いられがちな子どもにも、園では身も心も晴々と遊んでほしいと願うが、暗さも

## 「暗い」は大事

大多和 檀

「暗い」からイメージされることの一つに「怖い」があります。これは保育の中で結構大事な事ではないかと考えています。

私は常日頃、子供たちにまず必要なものは、土・

あって当然なので、それをそのまま、安心して出せるようにしたい。ふとした表情の陰りが、少しでも癒される場になったら、どんなにいいだろうかと思う。



水・太陽とと思っていますので、入園から天気の良い日は砂遊びや水遊びなどを中心に過ごしています。そうして自然の変化―曇りの日、雨の日、寒い日など―を体で感じ始める頃、また友だちとのかかわり